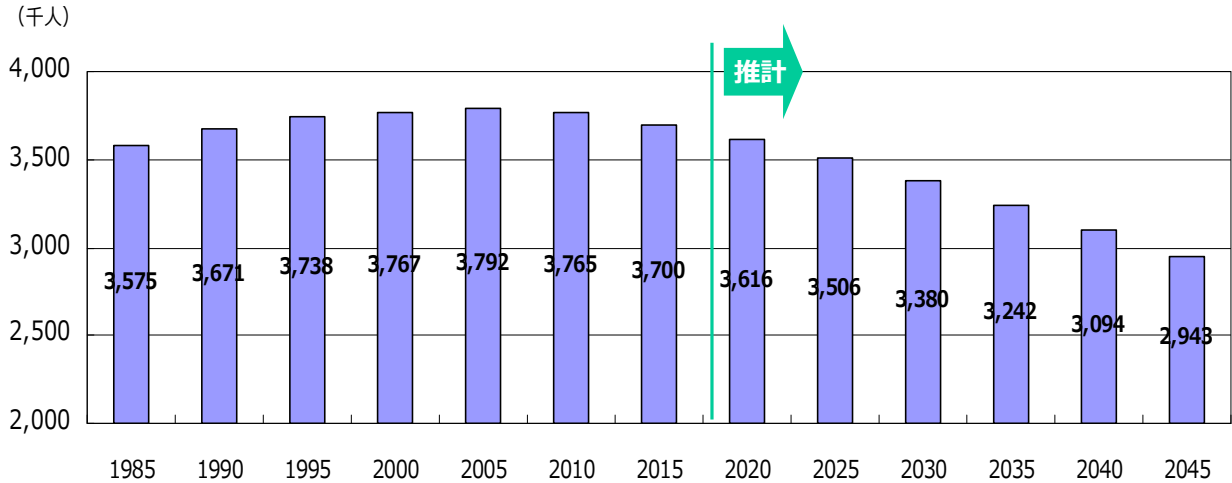


静岡県の経済・雇用状況
(主要な統計指標の年別推移等)

令和 3年 2月 17日

人口の推移

- ・ 静岡県の人口は、2007年の379.6万人をピークに減少を続け、2015年は370万人、2021年1月1日現在は361万人となっている。
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後、加速度的に人口減少が進み、2045年には294.3万人になると見込まれている。

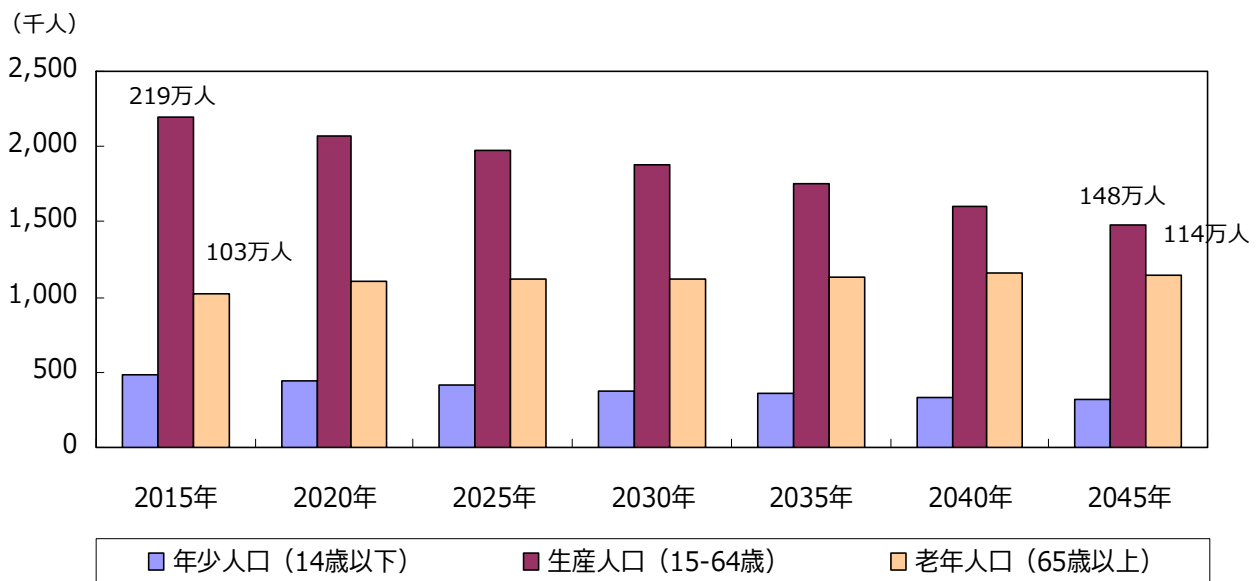


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」
静岡県「令和元年 静岡県年齢別人口推計」

1

将来推計人口（年齢区分別）

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、15歳から64歳の生産年齢人口は、2015年の219万人から、2045年には148万人に減少すると見込まれている。
- ・ 一方、65歳以上の人口は、2015年の103万人から、2045年には114万人に増加すると推計されている。

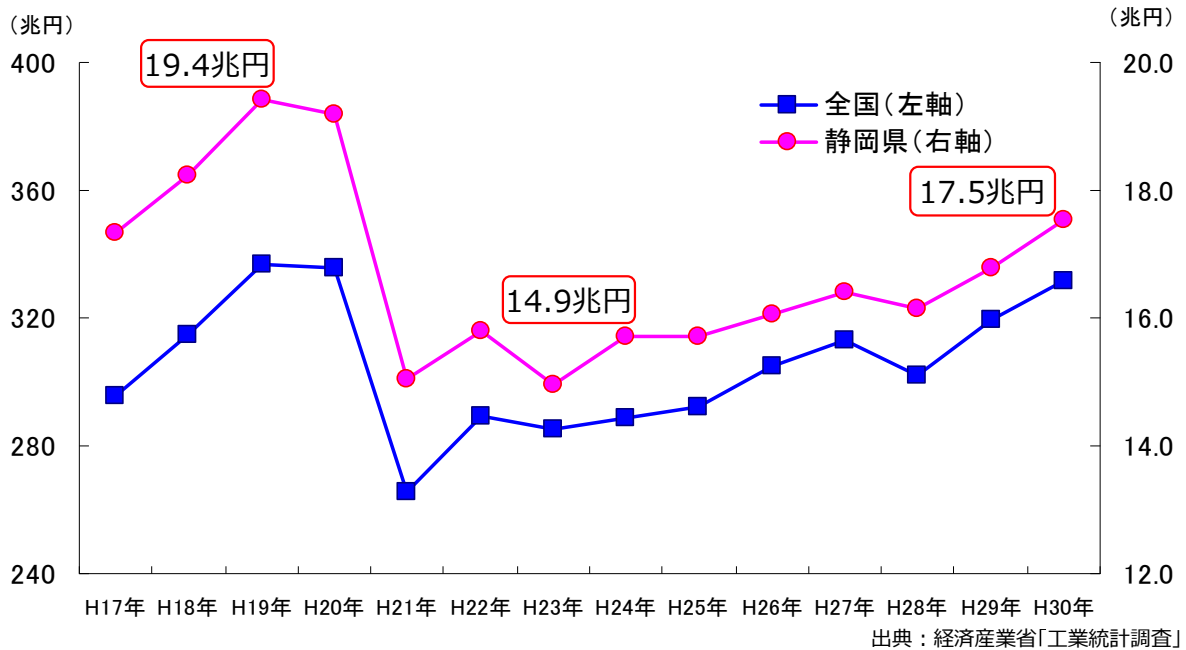


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

2

製造品出荷額等の推移

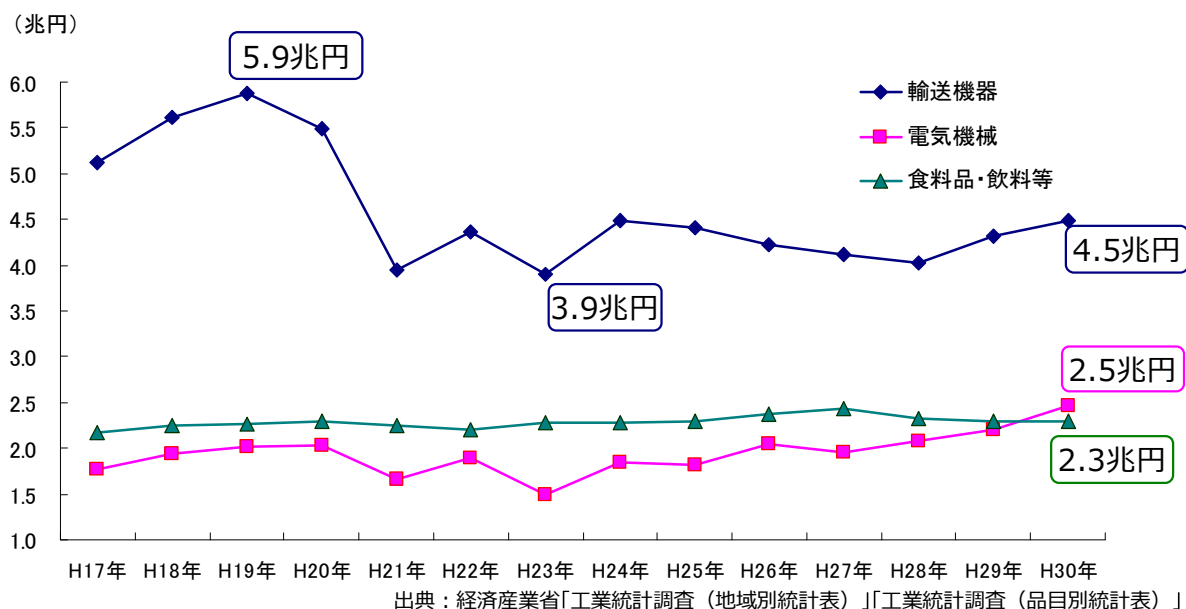
- ・静岡県の製造品出荷額等は、平成19年に過去最高となる19.4兆円となったが、リーマンショックや円高の影響を受けて、本県の主要産業である輸送機械等が大きく減少し、平成23年には14.9兆円まで落ち込んだ。
- ・その後、緩やかな回復傾向にあり、平成30年には17.5兆円となっている。
- ・全国順位は、愛知、神奈川、大阪に続く4位となっている。



3

主要な業種別の製造品出荷額等の推移

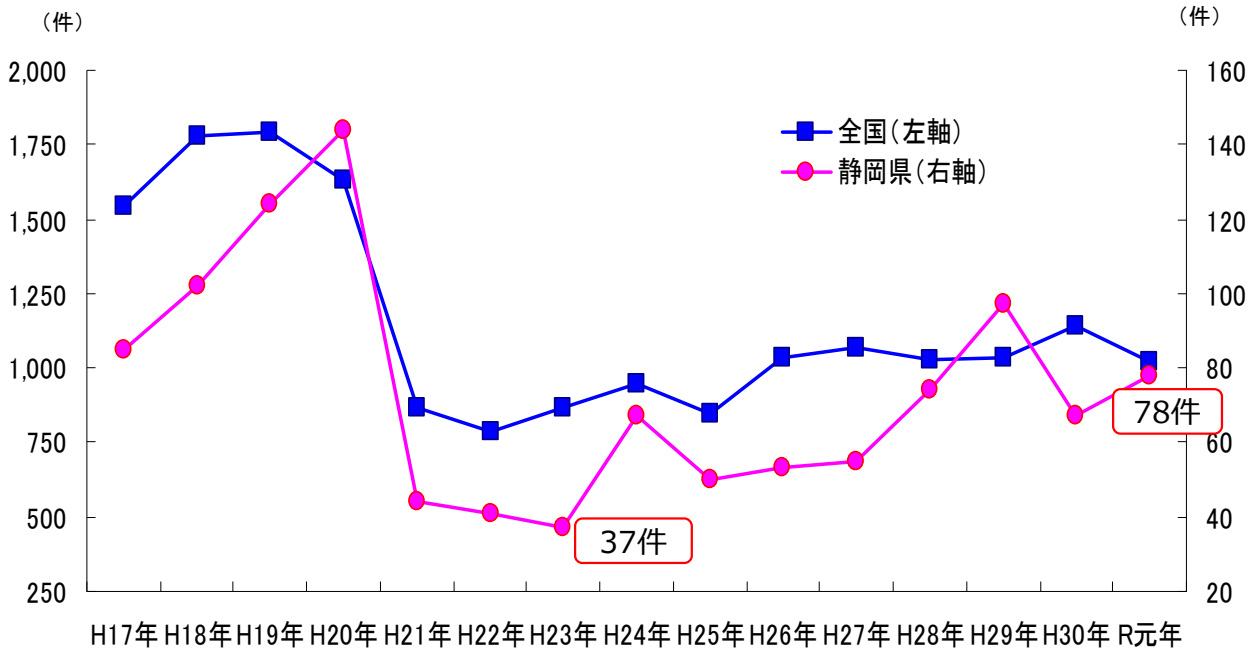
- ・製造品出荷額等を主な業種別に見ると、輸送機器は、平成25年以降は緩やかな減少傾向にあったが、平成28年以降回復に転じ、平成30年は4.5兆円となった（前年比3.8%増）。
- ・電気機械は、平成27年以降緩やかな増加傾向が見られ、平成30年は2.5兆円となった（前年比11.5%増）。
- ・一方、食料品・飲料等については、ほぼ横ばいで推移しており、平成30年は2.3兆円となった（前年比0.4%増）。



4

企業立地件数の推移

静岡県企業の立地件数は、リーマン・ショックで落ち込んだ後は、平成23年の37件を底に増加傾向が続き、平成28年には74件、平成29年は97件と2年連続で全国第1位となった。その後、平成30年は67件で全国第4位、令和元年は78件で全国2位と上位を維持している。

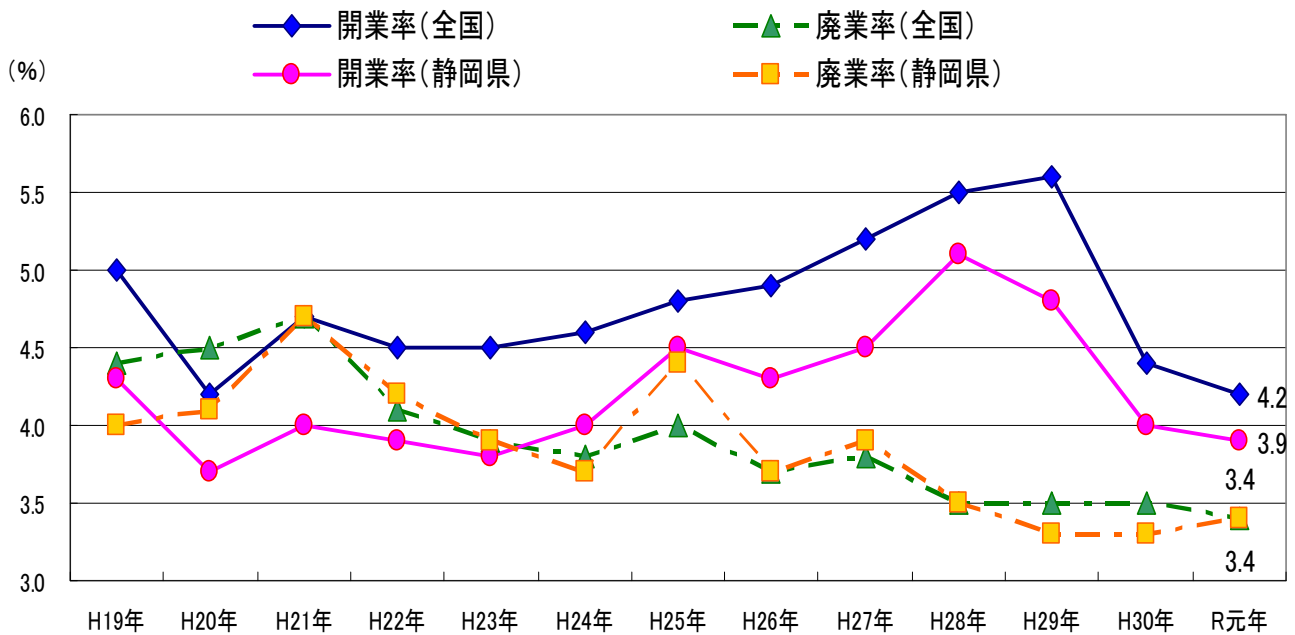


全国順位	3位	3位	1位	1位	5位	4位	3位	1位	3位	3位	4位	1位	1位	4位	2位
------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

出典：経済産業省「工場立地動向調査」

開廃業率の推移

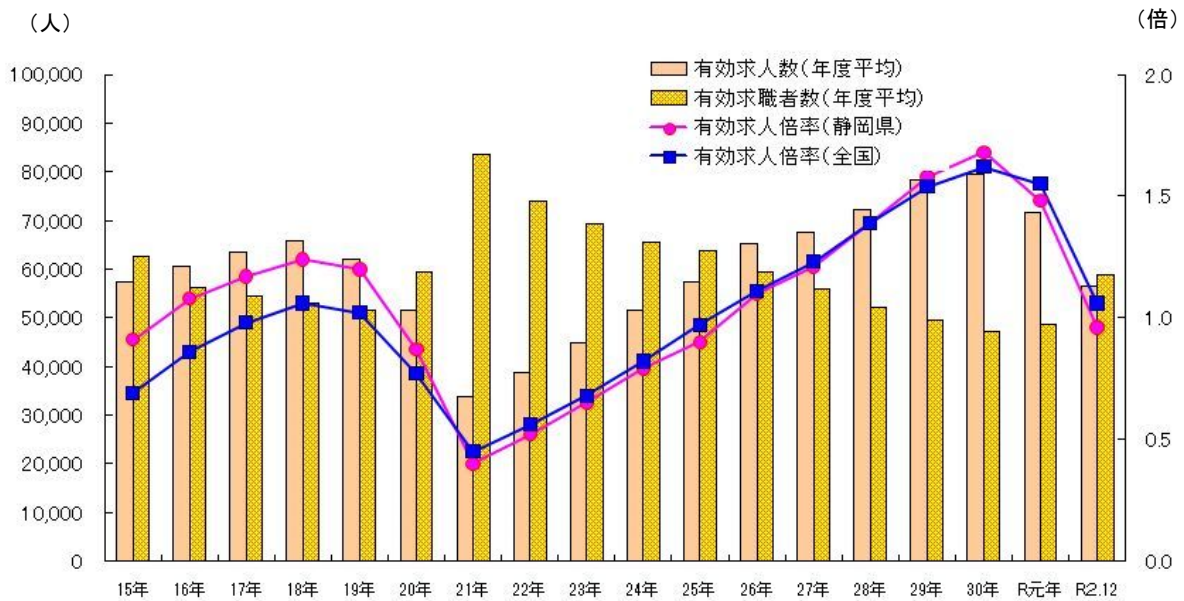
静岡県の廃業率は毎年全国並みに推移しているものの、開業率は全国に比べて低い傾向にある。



出典：厚生労働省「令和元年度雇用保険事業年報」を基に商工振興課算出

有効求人倍率の推移

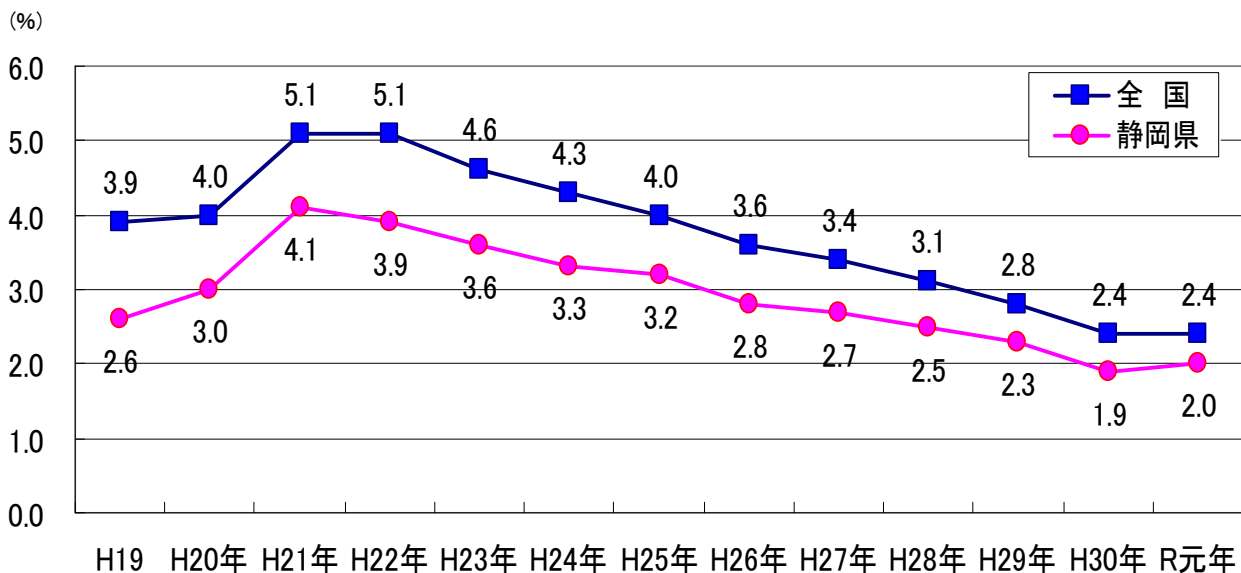
- ・静岡県の有効求人倍率は、リーマンショックで落ち込んだ後、徐々に上昇したが、令和元年は前年を下回った。
- ・令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から低下が続き、12月は全国数値1.06倍を下回る0.96倍となっている。



出典：静岡労働局「職業安定月報」

完全失業率の推移

- ・静岡県の完全失業率は、リーマンショック以降の急激な景気の後退に伴い、平成21年には4.1%まで上昇したが、雇用環境の改善により、令和元年には2.0%まで低下。
- ・ただし、足元では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、全国的に上昇している。(全国 令和2年12月 2.9%、本県 7～9月平均2.6%)



出典：総務省「労働力調査年報」